

第2回 学校運営協議会 記録

		学校名	横手市立横手明峰中学校	
開催日時、時間、場所		令和4年10月20日(木)		
出席者数	9名	欠席者数	1名	
協議案件	今年度のこれまでの取組について意見交換 明峰 PRIDE 宣言について意見交換			
「☆今後に向けての提言等」 「●課題と考えられる内容」 「○これまでの取組で評価できる内容」	<p>これまでの取組を振り返って</p> <p>キーワード1「高齢者は宝の山」</p> <p>○●「楽校」へ行こう！の取組はよかった。中高生ではなかなかできない取組であった。しかし、活動で終わるのではなく、そこからどのように生徒たちの自己有用感につなげていくかその後の取組も大事ではないか。</p> <p>○地域コーディネーターの協力もあり、ゲストティーチャーを地域からお招きするなど人材活用が進んだことは喜ばしいことだ。</p> <p>キーワード2「職業学習はCSにおまかせ！」</p> <p>○2年生のラベル貼りは生徒にもよい体験であったが、中学生が訪問することで蔵元にも参考になることが多々あった。</p> <p>●会社社で望むやり方があるだろうから、前年度の引き継ぎ等をしっかりしてスムーズに行えるとよい。</p> <p>●職場体験はできるだけ少人数で行った方が、生徒のニーズにも合わせ内容の濃いものにできる。</p> <p>☆職場体験はとてもよい取組なので是非定期的にはできないものか。どんなことも続けることが大事ではないか。エプソンでは「いつでも、どれくらいの人数でも、社食も」歓迎している。</p> <p>☆小学生は地域にどんなものがあるのか意外と知らない。沼の柵なども学ぶ機会がなくなった。山下太郎も大雄雄物川地区の子どもたちは知らない。大人が「横手には何もね」と言わないで、こどもたちにもっと地域にあるよいものを伝えていきたい。学校でも将来子どもたちが地元に残るようふるさとの魅力を伝えてもらいたい。</p> <p>キーワード3「情報発信で深まる連携」</p> <p>○コミュニティセンターに掲示している学校報や美術作品は大変喜ばれた。</p> <p>●学校報の掲示場所の拡大。さくら荘等にも掲示できるのではないか。</p> <p>●委員同士の横のつながりの持てる情報発信の仕方ができないか。</p> <p>☆全戸配付を年数回できないだろうか。</p> <p>☆学校報はA3で掲示させてもらいたい。</p> <p>☆学校の用語は横文字が多くてわかりにくい。用語集を作ったらどうか。</p> <p>明峰PRIDE宣言について</p> <p>○とてもよい取組である。この後も継続して見直すことで、それぞれの年度で自分たちのものとして意識していけるのではないか。</p> <p>☆毎年毎年自分たちの宣言であるということが自覚できるような取組を委員会等で頑張してほしい。3年経って忘れるようなものにしてほしくない。</p> <p>☆用語が難しいと理解が進まない。分かりやすくシンプルであるのがよいのではないか。例：情報端末→スマホ・タブレット</p>			
次回の連絡	2月第3週*詳細は後日連絡 第3回学校運営協議会 内容：これまでの振り返りと評価 来年度に向けた計画立案について			
記録者	横手明峰中学校 教頭 渡會 寛之			